

綱 領

われわれJayceeは社会的・国家的・国際的な責任を自覚し志を同じうする者、相集い、力を合わせ青年としての英知と勇氣と情熱をもって明るい豊かな社会を築き上げよう。



福島JCニュース



FUKUSHIMA
JUNIOR CHAMBER
OF COMMERCE

—福島青年会議所新聞—

第1回 ふくしま未来塾

ふくしまの希望育成委員会 委員長 瀬戸 秀典

本年度、(公社)福島青年会議所では高校生向けの事業として「第1回ふくしま未来塾」を開催しました。昨年までの青少年育成向け事業は小学生、中学生向けの事業であり、高校生向けの事業を開催したのは、初めてとなります。

ふくしま未来塾は、高校生が近々に迫った就職に対して明確な目標をもってもらうことを目的にサイボウズ株式会社、ソフトバンク株式会社協力のより8月5日、6日の2日間東京で開催しました。

8月5日は、サイボウズ(株)本社にて高校生のための夏の授業 OUR VISION CAMPUS～ハタチま



でに学びたい未来のつくり方」に参加しました。全国から100名以上が参加し全国の高校生と交流できる有意義な時間となりました。受講内容

としては、サイボウズ株式会社 社長青野 慶久氏による、『世界のすべてがわかる「フレームワーク」と「メソッド」』鎌倉投信株式会社 取締役/資産運用部長荒井和宏氏からは、『私たちの時代の新しい「お金」との付き合い方』、株式会社ユーグレナ 代表取締役

社長出雲充氏からは、『ミドリムシが世界を救う!? 想いを強く持つこと』そして映画『ビリギャル』の小林さやか氏からは『ビリギャル本人だから語れる物語』をそれぞれ受講し、福島から参加した代表者による、「ふくしまの現状」を発表する機会を頂戴しました。

8月6日には、ソフトバンク(株)の本社にて、入社3年未満、ソフトバンク各部門でご活躍の若手社員さんから、働くことや社会人になるまでに学ぶべきことを共にディスカッションし、社員食堂で一緒にランチをいただき夢や希望がもてる学習の機会となりました。

高校生向けの育成事業は本年初開催であり苦勞も多々ありましたが、福島の高中生が全国の高中生や、ソフトバンク若手社員さんから学び取ろうとディスカッションし、質問する姿に感銘を受けました。今後も、近未来の福島を支え発展させるであろう高校生に向けて学習する機会を提供することが、誇りに溢れるまち福島の実現に向け必要であると確信しました。



第25回 わらしっ子塾～自分の未来を考えよう～

ふくしまの希望育成委員会 委員長 瀬戸 秀典

本年度ふくしまの希望育成委員会では、将来に向け「働くこと」を考えてもらう機会を提供することを目的にし、小学生3年4年生を対象に、第25回わらしっ子塾～自分の未来を考えよう～を職業体験として東京方面に1泊2日で開催しました。

まず、8月27日に事前説明会と徳育セミナーを開催しました。徳育セミナーとは感謝する心を育むプログラムであり青少年育成事業である本事業の趣旨し、保護者からのアンケートからもご好評いただきました。

そして、9月10日、11日の本番では、10日の初日には、バスに2台で埼玉県に向かい、クリクラ埼玉県本庄市のクリクラ本庄工場、埼玉県北本市のグリコ・ピア・イーストの工場見学し、そこで働く人や、創業

者の考えを学ぶ機会を提供し、東京海員会館では、参加者の小学生が4～5人のグループで宿泊し共同生活を学びました。翌日には、キッズニア東京で職業体験をし、各企業での職業について詳しく学びました。

2日間の職業体験で、参加者は2日間家族から離れ共同して学習したとで、自分で考えて行動できるようになったように思います。参加者の皆さんが働くことに希望を持ち学校生活や学習に意欲的に臨みこの福島を支えてくれることを期待したいと思います。



2016年度 事業報告

理事長
高橋 美博

【一年を振り返って】

2013年に創立50周年を迎えた福島青年会議所は、その創始の精神を連綿と受け継ぎ今日に至ります。また、東日本大震災から5年の節目を迎える2016年は、伝統を継承しつつも未来を見据えた運動を展開してまいりました。今日まで続く青年会議所の灯を、絶やすことなく次代へ紡ぎ、地域に頼られ求められる存在となるべく運動を展開させていただくことで、青年会議所の存在意義を示し、大きな成果を出させていただくことができたものと自負しております。

【魅力あふれる会員・組織を未来へ】



我々は青年会議所会員である前に、一社会人、家庭を持つ者、一人の人間として他に恥じる事のないよう行動し、社会に対する責任を果たさなければならないと一年間言い続けてまいりました。JC運動だけではなく個々人の活動においても、それぞれが魅力あふれる責任世代の人間として成長させていただくことができたものと実感しております。つまりは、日々の多様な社会情勢の変革に即座に対応する組織であるべく、しっかりと未来を見据えることで、確固たるビジョンの確立へとつながり、来る55周年への道しるべとすることができたと確信しております。

【会員拡大の成果・今こそ始まりの時】

本年は18名の新入会員を迎えることができました。昨今、青年会議所は全国的に会員減少に頭を悩ませています。経済の飽和や少子高齢化による人口減少問題などが原因であると悲観するあまりに、マイナスな意識が先に立ち会員拡大を妨げているのかもしれませんが、この福島にはまだまだ志を同じくする仲間が沢山存在するはず。会員拡大の意義を自覚し、覚悟を決する今こそが、始まりの時であり、絶やすことなく想いを繋げなくてはならないとあら



ためて実感をいたしました。

【希望を担う子どもたちへ】

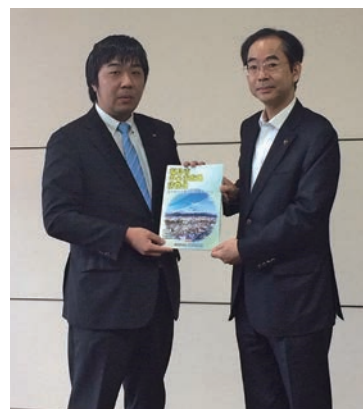
未来を創る子どもたちに少しでも地域を愛する心を醸成してもらいたいと、例年開催している「わらしこ子塾」に加え、「ふくしま未来塾」という高校生を対象にした事業を開催させていただきました。大企業の見学や、著名人からの講演を通して、自らが住み暮らす福島を、違った視点で見ってもらう機会を提供させていただきました。参加者の眼差しや、物怖じをしない発言力には青年会議所メンバーも共に学びを得ることができる機会でありました。この経験が、後の人生に大きなインパクトを与え、地域の未来へ寄与するものと信じ、福島の「希望」を育成することができたと確信しております。

【福島市の伝統を活かした魂を込めた交流】

東日本大震災以降、福島市は多くの注目を集め全国各地からの支援をいただき、それに応えるべく福島市の魅力を発信してきました。本年も、東北六魂祭をはじめ福島わらじまつりの知名度を活かし、東北六県のみならず日本全国との交流をしてまいりました。また、福島市のシンボルとしてのわらじをもっと身近なものにとの思いから、小学校を対象にしたわらじ作り体験教室も好評を得、二度の開催をさせていただきました。そして、暁参り福男福女競走においては、伝統ある暁参りと共に冬の風物詩として広く市民に伝搬することができたことで、地域からの更なる期待を感じることができました。

【福島市に住み暮らす誇りの確立】

本年で第4回を数えたパークランニングレースでは850名に及ぶ参加者に福島においていただき、信夫山の自然を満喫していただきました。また、福島に生まれ育ったことに対して誇りを持ってもらいたい。一度は故郷を離れたとしても、いつかまたこの福島に戻ってきてもらいたい。そんな思いから中心市街地活性化に向けたアンケートを実施させていただきました。小学生から高校生までの総数30000件に及ぶアンケートはこれからの福島のみちづくりに必ず役に立つものであると確信しております。そして2012年度より続く「新ふくしま未来構想」に基づく構想を再検証し、



アンケートと共に福島市へ提言をさせていただきました。さらには、有事の際に向けた福島市社会福祉協議会との災害時支援相互協力協定を締結できたことで、安全安心なまちづくりの一端を担うべく、福島青年会議所の地域における責任を再認識することができました。

【確実なLOM運営と法人格維持継続に向けた取り組み】

公益法人格を有する団体として、より確実かつ正確な運営が求められることを念頭に、法人格維持継続に向けた特別チームを構成し、運営ルールなど、まだまだ会員に浸透しきれない要素への学びの機会の提供に努めました。会員一人ひとりが自覚を持てるよう、定期的な勉強会を開催することで、個人のスキル向上へとつなげ、運営の基盤を築き上げることができました。

【青年会議所会員としての使命】

対外的な事業を展開するうえで、我々自身はその背中を見せることができる資格があるのだろうか。福島青年会議所では新入会員の割合が増え、入会3年未満の会員が半数に達します。市民目線で物事を考えれば、入会一年目も十年も変わらない福島青年会議所の一員です。だからこそ会員一人ひとりの知識向上、資質向上に努めるとともに、福島青年会議所創始の精神も学ぶ機会を提供いたしました。対象会員それぞれに自覚が芽生え、青年会議所会員としての使命を全うできる人財へと成長することができました。新たな人財の次年度以降の活躍を心から期待しております。



【ラストメッセージ】

青年会議所とは、とかく敷居が高い団体だと思った2004年、私は24歳でこの団体に入会をいたしました。同級生が青春と呼ばれる時代を謳歌する中、私自身は青年会議所運動に身を投じることになりました。時に理不尽なフリに頭を悩ませ、辞めたいと思いついたこともあります。しかし、青年会議所は誰一人として見捨てないのです。年齢など関係な

く、一人の青年として扱ってこれるこの団体に心を奪われ、一心不乱に活動をしました。いつしか仲間が増え、共に悩み、共に笑うことができなかけのない同志となりました。起居振舞から礼儀作法、自分自身の想いの伝え方まで、全てはこの青年



会議所に教えていただいたものであります。敷居を高くしていたのは自分であり、行動に遠慮をしていたのも自分であると気づかされた時、私には目標が生まれました。我々が生まれ育ったちは今、東日本大震災以降、過渡期を迎えております。風評被害は感じられなくなってきたのではなく、風化へと変わりつつあるのではないのでしょうか。自覚をしながら行動が伴わないということがないかと、常に自問自答をし、己を律し続けながら行動することで、福島未来を切り開くことができると強く思います。その心こそが私の信念である「知行合一」であり、利他の精神を持ち合わせることができれば、明るい豊かな社会を実現できるものと信じております。

結びに、第53代理事長という身に余る重責を担わせていただくにあたり、メンバーはもちろんのこと、家族、会社の支え、そしてOB会員のみならず、関係団体、行政、そしてなにより地域のみなさまの協力がなくては成し得ることができませんでした。すべてのみなさまに心から感謝を申し上げますとともに、54年目の新たな歴史を刻む福島青年会議所に対しましても変わらぬご指導ご鞭撻、ご支援をお願い致しまして、一年間の感謝に代えさせていただきます。一年間ありがとうございました。



**己を律し、仲間を信じ、相手を認め感謝を忘れるな。
常に自らが先頭に立ち、汗をかくことを忘れるべからず。
誇りに溢れるまち福島の実現に向けて。**

事務局

事務局長 宮崎 貴志

2016年度事務局は、「知行合一～己を律し、仲間を信じて行動せよ！誇りに溢れるまち福島の実現に向けて～」の基に運動を展開するメンバー、高橋美博理事長をはじめとする三役、理事メンバーのサポートをしながら一年間活動して参りました。正副理事長会議、理事会の設営はもちろん、各種事業のサポート、県北4JCとの連携、会員会議所会議の設営、各種ブロック事業、各種周年事業、各種大会への参加など多岐に亘ります。また、各委員会の皆様においては、各種遠征の渉外業務を担当して

いただき、ありがとうございました。

そして、7月には公益社団法人日本青年会議所の理事会にオブザーブさせていただき、会の運営、設営の在り方、会議の進め方等を勉強させていただきました。

事務局経験歴3回目の私でしたが、毎回色々なイレギュラーに遭遇し、専務理事の後藤洋孝君、事務局次長の鈴木優君、福井誠君にはいつも助けられ、「仲間を信じて行動せよ」の言葉が骨身に染みた一年でした。

最後に、決算理事会、一月総会の設営を残しておりますが、円滑かつ厳正で、さらには格好良く業務を全うし、2017年度にきちんと引き継ぎます。本当にありがとうございました。

財政局

財政局長 情野 裕仁

財政局はまず、各委員会が実施する事業や運動の効果を最大化するために、財政審査会議を開催し、予算執行を適正に行いました。そして、地域から負託された収益を適正に処理するために、L O M財政の透明化並びに適正化を推進して参りました。また、円滑、健全なL O M運営を行うために、予算表並びに財務諸表を作成し、効率的且つ適切な財務運営を行いました。さらに、法人としての義務を遵守するために、登記関係に係る事項の一切を行い、組織としてのコンプライアンス強化を行って参りました。また、L O M会計ガバナンスを一貫して行うため、その他、財政に関わる一切の業務を行いました。

財政審査会議では委員会と一線を画しながらニュートラルな状態で常に正しい判断を出さなければいけない立場としては、非常に苦痛でした。

私のことを申し上げさせて頂くと、普段はテキトーで大雑把な面が多分にあります。財政局をやらせて頂いてから、少し細かくなりました。それは物事の本質を深く追求し、目的や利益を俯瞰的に把握できる術を学んだ気がします。

これから公益社団法人として財政局の役割は更に重要なものとなってくると思います。そんな公益法人格としての草創期に携われたことは光栄に思います。

まだまだルールが未整備の中、正副委員長や理事会では本当に皆様にはご迷惑をお掛け致しました。

なんとか問題なく運営出来たのも皆様のご協力のお陰です。

一年間、本当にありがとうございました。



拡大ビックバン委員会

委員長 高橋 貴之

拡大ビックバン委員会は、「つながりこそが自己の力に変わる～楽しさがつくり出す仲間の輪」をスローガンとして、新たな仲間の輪を拡げるべく会員拡大運動に邁進してまいりました。例年成果に結びついている一斉拡大運動を継承しつつ、一斉拡大週間と銘打ち拡大強化週間、そして情報を共有する拡大報告会を開催し、4月には会員のさらなる拡大意識向上と拡大するための手法の学びの機会に、講師をお迎えして、拡大総決起集会を開催いたしました。ご参加いただいたメンバー皆様が拡大の重要性を再確認でき、例年以上の入会者数を迎える事が出来ました。これも一重に、皆様のご協力あっての賜物であり、心より感謝申し上げる次第です。本当にありがとうございました。

また、とうろう流し花火大会においては、昨今の異常気象から、台風の影響で開催河川の増水により、当青年会議所及び、とうろう流し発興会との共催以来、初の延期日開催となりました。この事業は、福

島とうろう流し発興会をはじめとする、福島県、福島市、警察署、消防署、消防団など多くの関係各位のご協力のもと、開催に至ることができる事業でございます。天候や、その状況によって延期日開催となったにもかかわらず、理事長はじめ多くのメンバーにご参加・ご協力を賜り、事故・ケガもなく、福島市の夏の風物詩を運営できましたこと、忘れられない思い出の事業となりました。

会員の拡大は、40歳で卒業という青年会議所のルールの中、毎年必ず行っていく永続的の事業です。今後の福島青年会議所の光ある未来のために、皆様にご協力いただきながら、新たな仲間の輪を繋げて参ります。一年間、誠にありがとうございました。



ふくしまの希望育成委員会

委員長 瀬戸 秀典

本年度、ふくしまの希望育成委員会は、小学生向け健全育成事業としてわんぱく相撲福島 LOM 大会、わらしっ子塾～未来の自分を考えよう～、そして高校生向け事業として、ふくしま未来塾を開催しました。

まず、わんぱく相撲福島 LOM 大会では、4月29日に学校法人松韻学園福島高校の室内相撲場にて開催し、その後の福島県大会では、小学4年、小学5年、小学6年の男子すべての学年で優勝することができました。全国大会では、全国の強豪に悔しい思いをして人間的成長が感じられる事業でした。

また、わらしっ子～自分の未来を考えよう～では、小学3、4年生が1泊2日で、東京方面に職業体験をしました。クリクラ本庄工場、グリコピアイーストの工場見学、小学生だけの宿泊、翌日にはキッズニア東京で職業体験と、「働くこと」について学ぶことができる機会を提供し充実した事業となりました。

そして、今年度は福島 JC 初の高校生向け事業として、ふくしま未来塾を開催し、サイボウズ(株)の本社で、青野 慶久氏 サイボウズ株式会社 社長、荒井和宏氏 鎌倉投信株式会社 取締役/資産運用部長、出雲充氏 株式会社ユーグレナ 代表取締役社長、小林さやか氏 映画「ビリギャル」の本人から、それぞれ専門分野での講義を受講し、福島の高校生からは、福島の現状についての発表することができました。翌日には、ソフトバンク(株)の本社において、ソフトバンクの3年未満の新入社員と働くことについてディスカッションし将来について真剣に考えられる授業となったと確信しています。

本年も、ふくしまの将来を担う青少年に対し学ぶ機会を提供することができましたことに対し御礼を申し上げます。



歳時記魂交流 委員会

委員長 藤井 守

当委員会では故郷のソーシャルストックである「信夫山」「わらじ」を活用した運動・活動を行いました。「第4回福男福女競走」では、参加人数が例年より上回りイルミネーションを使いインパクトのある事業としました。「第47回福島わらじまつり」わらじ競走では、歴史を覆す挑戦を行い山車の競走から「健脚わらじ」を活用した競走の実施を行い、わらじ競走の本質を追及いたしました。「わらじ体験教室」「出張わらじつくり体験」では、県内外の参加者や学校の生徒に福島の伝統文化、歴史を幅広く伝える事が出来ました。そし

て、遠征活動では、他団体と協力し「東北六魂祭」のファイナルを飾りました。

全ての事業へのご協力があり無事に終える事が出来ました。そして、最高の委員会メンバーと活動が出来たことを感謝いたします。ありがとうございました。



ふくしまプライド確立 委員会

委員長 遠藤 武義

本年度、ふくしまプライド確立委員会では「市民の地域愛を呼び覚まし、誇り溢れるまち福島を実現しよう」をスローガンに一年間活動をしてまいりました。

2月には、福島市社会福祉協議会と災害時支援相互協力協定を締結し、来るべき災害への備えを強化致しました。

5月には、第4回パークランニングレースを開催しました。800名を超える方に参加いただき、全国各地からの参加者に信夫山の魅力を発信することができました。また、福島市長にもお越しいただき、参加者とともに信夫山に桜とツツジを植樹していただきました。

他にも、中心市街地活性化事業として、福島市内全ての小中学生・高校生約30,000名にアンケートを行うとともに、その結果を基に学生会議を開催致しました。中心市街地活性化に向けては、若年世代の市外流出を抑えることが肝要と考え、そ

のためには何が必要かをアンケートと会議から探り、その結果を市へ報告書として提出致しました。

また、「ふくしま未来構想」事業として、全国各地の国際会議場を視察し、福島市に必要なコンベンション施設の具体的な形を探りました。そして、福島青年会議所として福島市に最適なコンベンション施設の具体的な形を提言書にまとめ、福島市へ提出致しました。

本年は、当委員会が担う事業も多く、委員も苦勞したことと思います。しかしながら、福島青年会議所全メンバー、OBの皆様、そして地域の皆様のご協力があつて、何とか全ての事業をやり抜くことができました。心から感謝を申し上げます。一年間誠にありがとうございました。



LOM運営 委員会

委員長 渡辺 忍

今年度、LOM 運営委員会では、例会、新年会、創立記念祝賀会、卒業式の設営、ホームページの運営やこの JC ニュースの発行、理事会議事録の作成、公益法人格維持対策室勉強会の開催等、多岐にわたり活動してまいりました。大きな事業はありませんが、ひとつひとつが LOM にとって大切なものだったと思います。今年の委員会スローガン「地味だなんて言わせない！明るく楽しく活動して、福島青年会議所を支えよう！」の通り、地味ではなく、存在感を残せた委員会になったのではないかと考えております。それも、委員会メンバーや会務担当渋谷副理事長、ご協力いただい

た皆様のお陰だと思っております。この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

この後も、例会の設営や、卒業式の設営、理事会議事録の作成など、12月いっぱいまで担いは続きます。最後までしっかり担いを果たし、次年度へ引き継いでいきます。

1年間、ありがとうございました。



247ミッション推進 委員会

委員長 石森 敏彦

本年度、247 ミッション推進委員会では“唯心論”「素晴らしい LOM への成長を～」をスローガンに一年間活動してまいりました。高橋美博理事長より若手会員の育成と JC の意義を発信する担いを仰せつかり、各委員会より輩出された 21 名の若い会員をミッション生とし、2月例会にて結団式を行いました。また同月、大内淳子先輩に講師をして頂き「VMV セミナー」を開催し JC について学びの場を創出し、3月に「現役・OB 架け橋」事業を講師に鈴木宏幸先輩をお招きし LOM の歴史と JC マンとしての心得を教わりました。6月には 13 名の新入会員へ入会セミナーを開催し若人たちへの入会を牽引いたしました。そして7月に外部講師をお招きし、JCI 公認コースの Impact セミナーを開催し地元地域と JC との今後の関わり方を、グループワークを通じ勉強致しました。さらに9月に東北地区協議会と福島ブロック協議会の役員会議へ若手会員をオブザーブに引率し LOM 以外の JC 活

動・JC 運動を周知致しました。10月には一年を通じ学んだ、さまざまな事柄の成果を当委員会設営の例会にて修了式を開催しミッション生より一人ずつスピーチで「今後、JC でやってみたいこと」をテーマに発表を行い、現役会員より沢山の称賛を頂戴することが出来ましたことを御報告させていただきます。

最後となりますが事業のみならず、JC 活動・JC 運動ともに先輩方からの想いを継承する事が出来たのも、自ら考え行動してくれる素晴らしい委員会メンバーに恵まれたこと、また様々な場面で協力を惜しまず委員会を支えて下さった全ての皆さまのおかげであったと心から感謝しております。

1年間、誠にありがとうございました。



2016年 主な事業



▲わらしっ子塾



▲わんぱく相撲



▲インパクトセミナー



▲拡大報告会



▲パークランニングレース



▲出張わらじ教室



▲福男福女競走



▲第4回ハチ公サミット



▲現役・OB 架け橋事業



▲家族例会